

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(城山特別支援学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		子どもたちの笑顔があふれ、豊かな学びができ、生活力が高まる学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	多くの人と出会い、たくさんの経験や体験を通して、自分の生き方を選択できる力をつけ、豊かな生き方ができる子ども
	ありたい教職員の姿	○目指す学校像を念頭に置き、子どもの可能性を信じ、子どもの生き方や考え方を尊重し、子どもに寄り添い、子どもの力を伸ばすことに取り組める教職員 ○子どもや保護者、同僚との対話を重ね、豊かな関係を築くことができる教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童生徒> ○一人ひとりの性格や特徴、障がいを理解し、世界が広がる生き方を応援してほしい。</p> <p><保護者> ○子どもたちが楽しく生き生きと過ごせる環境を作り、社会の一員として生きる力を身につけさせてほしい。</p> <p><地域社会> ○子どもたちが様々な体験や経験を積み、社会の一員として地域で生活できるよう、子どもたちの活動を広げていってほしい。</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><児童生徒> ○毎日安心して楽しく学校生活を送りたい。 ○自分の夢や願いをかなえる手助けをしてほしい。</p> <p><保護者> ○安全安心で楽しい学校生活を送らせてあげてほしい。 ○子どもの育ちを共有し、信頼して様々な相談ができる存在であってほしい。</p> <p><関係諸機関> ○児童生徒が安全安心に学校生活を送れるよう支援する存在であるとともに、関係者間で連携しながら成長を見守るパートナーであってほしい。</p> <p><地域社会> ○学校の活動内容について十分に知ることができ、活動に協力できる。</p>	<p><児童生徒> ○体調を整え元気に楽しく登校してほしい。 ○自分の夢や将来像に向かってチャレンジする意欲を持ってほしい。</p> <p><保護者> ○子どもたちが充実した学校生活を送るうえでのパートナーであってほしい。 ○教職員との信頼関係のもと、子どもたちの生き方を応援してほしい。</p> <p><関係諸機関> ○子どもたちの成長をともに見守るパートナーとして本校教育に協力いただきたい。</p> <p><地域社会> ○ともに子どもたちを育むための一員となっていきたい。</p>

<p>(3)前年度の学校関係者評価など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンスの徹底については学外参観者を校内に招き入れる「学校の見える化」や、「不適切な指導セルフチェックリスト」による注意喚起は必要な視点であり、今後も効果的に継続しつつ、常に見直しのきく姿勢で進めるとよい。 ○居住地校交流の実績を考えると必ずしも対面にこだわるのではなく、ICT機器を活用したオンライン交流等も柔軟に導入すべき。保護者としても居住地校交流は非常に貴重な機会と捉えており、可能であれば事前に交流内容の希望が調整できる仕組みにしていきたい。 ○防災は喫緊の課題でありLINE活用による安否確認システムは良いと思う。今後、実効性のある防災マニュアルの再構築や、今後の「子ども福祉避難所」への展開について、地域ニーズの把握も含めて期待したい。
<p>(4)現状と課題</p>	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「個々の教育的ニーズへの対応」について、教科学習中心の教育課程に関する各種研修を積み重ね、教職員の共通理解が図られている(R6年度 公開研究会開催)。今後も肢体不自由教育の専門性向上につながる研究を展開する必要がある。また「学校満足度調査」結果はようやく目標値を上回ることとなったが、引き続き透明度の高い学校運営を心がけ、保護者のニーズを真摯に受け止めていくことが求められる。 ○「児童生徒の尊厳を重んじる人権教育の推進」では、居住地校交流について、感染症の不安は軽減されつつあるが、必ずしも積極的な交流には発展しておらず、オンラインの有効活用など相互に取り組みやすい方法を検討・模索していく必要がある。 ○「体験を重視したキャリア教育の充実」では、計画的、段階的な校外学習や系統的な現場実習等を実施することで一定の成果を上げることができている。保護者向け研修会の開催も含め、学校と家庭が緊密に連携した取組を継続・発展させていく必要がある。 ○「安全安心の確保と防災等危機管理の推進」について、防災対策等では能登の震災や南海トラフ巨大地震情報発令をふまえ、実効性の高い対策と対応マニュアルを根本的に編成し直す取組を開始している。今後、学校の福祉避難所化等も視野に入れ、引き続き保護者や地域と課題を共有し、現実的な対策を進めていくことが求められる。
	<p>学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「信頼される学校づくり」、「地域への情報発信とセンター的機能の充実」については概ね目標が達成されたことから、引き続き明確な目標を設定し、着実に進めていく必要がある。 ○「働き方改革をふまえた働きやすい職場環境づくり」では、「教職員満足度」が目標達成に僅かに届かなかったことから、引き続き、全ての教職員が相互に情報を共有しあい、見通しを持って主体的に業務に参画できる気運や風土の醸成を心がけ、働きやすい職場づくりを進めていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○統一校務支援システムの活用により、児童生徒の多様な教育的ニーズを丁寧に把握するとともに、より緊密に保護者・関係機関との連携を図ることで「個別の教育支援計画」等の有効な活用を図りたい。特に教科学習と自立活動を明確に整理した教育課程を展開し、個に応じた丁寧な指導を進めたい。また「学校満足度調査」は継続し、保護者のニーズを真摯に受け止めていきたい。 ○個々の児童生徒が自己肯定感を高め、適切に仲間づくり、人間関係づくりができるよう人権教育を推進するとともに、交流及び共同学習の促進によって児童生徒が地域で生き生きと生活できる姿をめざしたい。特に居住地校交流については相手校含め実施しやすい進め方を模索していきたい。 ○キャリア教育の充実は保護者・関係機関等の協力が不可欠なことから、医療・福祉・労働等関係諸機関と緊密に連携することで児童生徒の将来を見据えた自立と社会参加を促進していきたい。
-------------	--

	○児童生徒の安全安心な学校生活を実現するため、日常の医療面に係る留意に加え、感染症や自然災害等への備えも含めた教育環境の整備を推進したい。特に防災等危機管理については保護者や地域と現実的な課題を共有し、実効性ある対策を速やかに進めていきたい。
学校運営等	○「信頼される学校であるための行動計画」をふまえ、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に取り組むことでコンプライアンス遵守の徹底や人権意識の向上を図りたい。特に障がいの程度が重度の子どもたちに寄り添う教職員が感じる特有の窮迫感の軽減（ケアする人のケア）につながる研修を模索したい。 ○地域に根ざした特別支援学校として、センター的機能を発揮し、中勢地域の特別支援教育、特に肢体不自由教育の専門性に基づく各種支援を展開したい。 ○全教職員が生き生きと仕事ができる風通しの良い職場風土を醸成するとともに、学校全体の業務の進め方を点検、改善することで教職員の業務の平準化を図るなど、教職員の働き方改革に留意した取組を推進し、働きがいのある学校・働きやすい学校をめざしたい。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
個々の教育的ニーズへの対応	○的確な実態把握と将来を見通した個別目標を設定するとともに、保護者との教育的価値の共有に基づき、「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」を丁寧作成し、児童生徒の発達段階や身体状況に即した系統的な指導を進める。 ○教育課程を適切に運用し、授業力、指導力の向上に係る学部や縦割りの研修を積極的に実施し、その充実を図る。 【活動指標】 ①学部・クラス内における「個別の指導計画」等の共通理解と指導方針の点検及び保護者との共有：随時 ②学習の系統性を重視した授業改善、観点別評価の実施等、授業力向上に係る学部・縦割研修の実施：各10回以上 ③各教科等を合わせた指導(指導形態)で扱う教科等(教育内容)と教育課程の妥当性・実効性の検証：各学部3回以上 【成果指標】 ①保護者対象「学校満足度調査」による教育活動の評価「総合的に満足している」と回答した割合：90%以上	活動指標①：【達成】 個別の指導計画の点検 各学部：4回 活動指標②：【達成】 授業力向上研修：12回 ・学部研修：9回 ・縦割り研修：3回 活動指標③：【達成】 教育課程検討：8回 成果指標①：【達成】 学校満足度調査 回答割合：91.7%	◎
児童生徒の尊厳を重んじる人権教育の推進	○個々の児童生徒が自己肯定感を高め、適切に仲間づくり、人間関係づくりができるよう支援する。 ①人権週間やいじめ防止月間の取組を中心になかまを大切に活動の推進 ②障がいのある子と障がいのない子の交流及び共同学習による相互理解の推進 【活動指標】 ①仲間づくりを大切に活動した児童生徒会活動の実施：年7回 ②居住地校交流の実施：一人あたり3回以上	活動指標①：【達成】 生徒会活動：10回 活動指標②：【達成困難】 居住地校交流：6回 2回：小1名 1回：小4名	※

<p>体験を重視したキャリア教育の充実</p>	<p>○児童生徒の将来を見据え、自己の経験がキャリアとして積み上がるよう体験的な学習を推進する。 【活動指標】 ①計画的・段階的な校外学習、宿泊学習等、体験的な活動を含む校外学習：各学部1回 ②自己の進路決定につながる系統的・段階的な現場実習：高等部一人あたり1回以上 ③児童生徒の進路実現に向けた進路懇談・支援会議の実施：対象者一人あたり1回以上 ④進路指導に係る情報発信ツールである進路通信「城山コラボ」の発行：年間6回以上 ⑤保護者向け進路研修会・施設見学会の開催：年2回以上</p>	<p>活動指標①：【達成】 ・宿泊学習 各学部1回実施 ・校外学習 1回：小、高 2回：中 活動指標②：【達成】 高等部現場実習 1人1回以上実施 活動指標③：【達成】 対象者：14人に実施 ・進路懇談：4名 ・支援会議：10名 活動指標④：【達成困難】 進路通信発行：5回 活動指標⑤：【達成】 保護者向け研修：3回</p>	<p>※</p>
<p>安全安心の確保と防災等危機管理の推進</p>	<p>○児童生徒の安全安心な学校生活につながるスクールバスの運行、医療的ケアの実施、防災対策の取組を推進する。 【活動指標】 ①スクールバス委員会による運行上の課題解決とマニュアルの点検及び見直し：随時 ②-01 医療的バックアップ委員会による安全確認：隔月 -02 緊急対応マニュアルに基づく訓練の実施：3回 ③-01 保護者引渡、スクールバス避難の訓練実施：各1回 -02 巨大地震を想定した避難所開設・運営に係る対応マニュアルの点検及び見直し：年4回</p>	<p>活動指標①：【達成】 SB委員会開催：4回 活動指標②-01：【達成】 医バック委員会：7回 活動指標②-02：【達成】 緊急対応訓練：3回 活動指標③-01：【達成】 保護者引渡訓練：1回 SB避難訓練：3回 活動指標③-02：【達成】 マニュアル改定：1回 見直し：3回</p>	<p>◎</p>

改善課題

●「個々の教育的ニーズへの対応」について、校内研修を通して重度重複障がいのある児童生徒の教科指導に対する考え方や指導内容について理解を深めることができている。引き続き教育課程を適切に実施し、児童生徒の確実な学びにつながる系統的な指導となるよう継続して授業改善に取り組む必要がある。「学校満足度調査」結果は目標値を上回ることとなったが、引き続き透明度の高い学校運営を心がけ、保護者のニーズを真摯に受け止めていくことが求められる。

●「児童生徒の尊厳を重んじる人権教育の推進」では、今年度も居住地校交流が目標達成に至らなかった。実施方法の検討に加え、あらためて居住地校交流の趣旨や意義等について保護者への周知を図る必要がある。

●「体験を重視したキャリア教育の充実」では、校外学習や現場実習等を計画的に実施することで、一定の成果を上げることができた。今後も体験的な学習について、あらゆる児童生徒が参加できるよう実態に応じた活動内容や実施方法、時間設定等を工夫し、学習の機会を確保していく必要がある。

●「安全安心の確保と防災等危機管理の推進」では、スクールバスの運行や医療的ケアの実施について、訓練やマニュアル点検を通して児童生徒の安全安心につなげることができている。防災対策では、学校の福祉避難所化の検討を進めるとともに、児童生徒の各居住地域での避難も想定の上、引き続き保護者や福祉等関係機関、地域と課題を共有し、現実的な対策を進めていくことが求められる。

(2)学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
----	---------	----	----

<p>信頼される学校づくり</p>	<p>○学校信頼向上委員会を核とし、「信頼される学校であるための行動計画」に即したコンプライアンス遵守の徹底や人権意識の向上により、信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>①児童生徒の尊厳を重視した人権研修の開催：年2回 ②不適切な指導セルフチェックリストの実施：各学期初め1回 ③不祥事チェックシートの実施：各学期末1回</p>	<p>活動指標①：【達成】 人権研修：5回 活動指標②：【達成】 チェックリスト：3回 活動指標③：【達成予定】 チェックシート：3回</p>	<p>◎</p>
<p>地域への情報発信とセンター的機能の充実</p>	<p>○地域の特別支援教育の推進に寄与するために積極的な情報発信に努める。</p> <p>○地域の小中学校等からの要請（主として肢体不自由教育に関わる内容）に応じた支援を展開する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>①学校ホームページの更新：10回以上 ②センター的機能による地域の小中学校に対する教育相談等回数：5回以上</p>	<p>活動指標①：【達成】 学校ホームページ更新：16回 活動指標②：【達成】 地域支援：15回</p>	<p>※</p>
<p>働き方改革をふまえた働きやすい職場環境づくり</p>	<p>○全教職員が生き生きと仕事ができる風通しの良い職場風土を醸成する。</p> <p>○学校全体の業務内容を見直し、精選することで教職員の業務の平準化を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <p>①定時退校日に退校できた教職員の割合：80%以上 ②会議の効率化（放課後1時間以内の会議終了）：100% ③小グループでのオフサイトミーティングの実施：2回 ④各学部、校務分掌、委員会等における業務精選等に係る協議：随時</p> <p>【成果指標】</p> <p>①年360時間を超える時間外労働者の人数：0人 ②月45時間を超える時間外労働者の延べ人数：0人 ③1人あたりの月平均時間外労働時間：30時間以下 ④1人あたりの年間休暇取得日数：昨年度比1日増 ⑤「教職員満足度調査」における「日々の仕事へのやりがいや楽しさを感じる」と回答した割合：80%以上</p>	<p>活動指標①：【達成】 定時退校：99.8% (前年度99.8%) 活動指標②：【達成】 1時間以内の会議：100% (117/117回) 活動指標③：【達成】 小Gミーティング：5回 活動指標④：【達成】 業務精選協議：随時 成果指標①：【達成】 年時間外：0人 成果指標②：【達成困難】 月時間外：1人 成果指標③：【達成】 月時間外：3.0時間 成果指標④：【達成困難】 年間休暇：20.4日 (前年度19.9日) 成果指標⑤：【達成】 満足度調査：83.7% (前年度79.2%)</p>	<p>※</p>

改善課題

- 「信頼される学校づくり」では、保護者対象の「安全安心な学校生活アンケート」の設問を見直すなどし、「信頼される学校であるための行動計画」に即した取組を進めることができた。引き続き教職員一人ひとりが児童生徒の人権に対する意識を高めるとともに、教職員間の同僚性を高め互いに指摘し合える環境づくりに学校全体で取り組んでいく必要がある。
- 「地域への情報発信とセンター的機能の充実」では、津市内の肢体不自由学級担当者対象の研修会を新たに開催し一定の成果はあった。引き続き小中学校のニーズの把握に努め地域支援を実施する必要がある。また、就学前児保護者や城山地域住民に対して、本校や児童生徒への理解が深まる取組も必要である。
- 「働き方改革をふまえた働きやすい職場環境づくり」では、4月の時点で月45時間超の時間外労働者が1名であったことから、年度当初の業務遂行にあたって十分に配慮する必要がある。教職員が減員した状況下でも安心して休暇を取得できる職場環境づくりが求められる。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者対象の学校満足度調査について、調査結果を改善活動に活かすには、保護者の満足できない点について原因を明らかにすることが重要である。現行の設問では保護者の困っていることや不安に感じていることの詳細を把握することが難しい。設問を工夫することで保護者の困り感や満足できないことを丁寧に聴きとり、学校の改善活動につなげることが大切である。 ●共生社会の実現に向け居住地校交流は意義のある取組である。卒業後の子どもの姿を思い描き、学校からも地域に対して発信し続けてもらうとよい。 ●障がいのある子どもとの交流経験の有無によって、その後の障がい者への理解や態度に差があると感じていることから、居住地校交流や学校間交流の取組がさらに進むことに期待したい。保護者に対して希望の有無だけでなく居住地校交流の意義や成果等も説明することで保護者の考えや思いを確認できるのではないかな。 ●地域防災において障がいのある子どもたちの特性や必要とする支援等について事前に把握しておくことが不可欠と考えている。地域の防災体制を検討していくうえで学校との情報共有は必要である。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教科指導を実施するにあたり、教職員間の共通理解を図るツールとして各教科の内容や実施時期を見渡せる年間指導計画を作成し実践することで、児童生徒の調和的発達をめざす系統的な指導に取り組んでいきたい。児童生徒の実態に応じた教材教具づくりやICT機器活用によって、児童生徒の確かな学びにつながる取組を進めたい。 ●交流及び共同学習は共生社会の実現に向け大きな意義があることから、実施形態の一つである居住地校交流の意義や目的、実施方法等について、保護者へ丁寧な説明を行うとともに、実施にあたっての課題を明確にし、継続して取組を進めていきたい。 ●周囲や社会とのかかわりの中で児童生徒一人ひとりが意思表示や自己表現、自己選択・決定できるよう、児童生徒の障がいの状態や発達の段階、学習の履歴等に応じた校外での体験的な活動を計画的に実施していきたい。 ●「防災対策委員会」を「防災・減災対策委員会」に再編し、減災につながる日頃の備えや災害発生時に想定される様々な課題について多面的に検討し、より現実的で実効性ある防災計画の策定及び見直しを進めていきたい。災害時に児童生徒の命をいかにして守るかという視点で、「個別避難計画」の作成、城山地域や居住地域での避難等について保護者・地域とともに検討していきたい。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者にとって学校や児童生徒の様子がより分かるように「学校の見える化」の取組をさらに進めるとともに、学校満足度調査の調査項目を見直すことで改善課題をより明確にし、信頼される学校づくりを推進していきたい。学校信頼向上のための研修やセルフチェックの趣旨を確認し、実施内容や方法を工夫することで形骸化させることなく取り組んでいきたい。 ●今年度開催の津市内の肢体不自由学級担当者対象の研修会を契機として、顔が見える関係の中で小中学校の肢体不自由教育や自立活動の指導等に関するニーズを把握し、本校の授業等で用いた教材教具の紹介やセラピストチームによる助言等の地域支援に取り組んでいきたい。 ●限られた教職員数でも一定量の業務を確実に遂行できるよう、業務の精選や会議の開催方法等の見直しを進めるとともに、SSS（スクールサポートスタッフ）等の効果的な活用、児童生徒の指導時間と分掌業務従事時間とのバランスに配慮したタイムマネジメントに取り組んでいきたい。学部や担当分掌部署（部・班）を超えた協力や支え合いができる同僚性や心理的安全性の高い職場環境づくりに取り組んでいきたい。